



東京理科大学  
TOKYO UNIVERSITY OF SCIENCE

# 東京理科大学の 教員養成

創立から140年  
受け継がれる  
教員養成の精神



# 理学の普及を目指して

東京理科大学は、明治14(1881)年に東京大学を卒業間もない若き理学士らにより「東京物理学講習所」として創立され、2年後に東京物理学校と改称されました。創立者たちは「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」との建学の精神を掲げ、理学の普及運動を推進しました。この結果、東京物理学校で教育を受けた多くの卒業生が、明治・大正期のエリート養成学校である中等学校や師範学校の教壇に立ち、理学の普及に大きな役割を果たしました。夏目漱石の「坊っちゃん」もその一人として描かれています。創立以来、真に実力を身につけた学生だけを卒業させるという「実力主義」を旨とし、その伝統は今日まで引き継がれています。

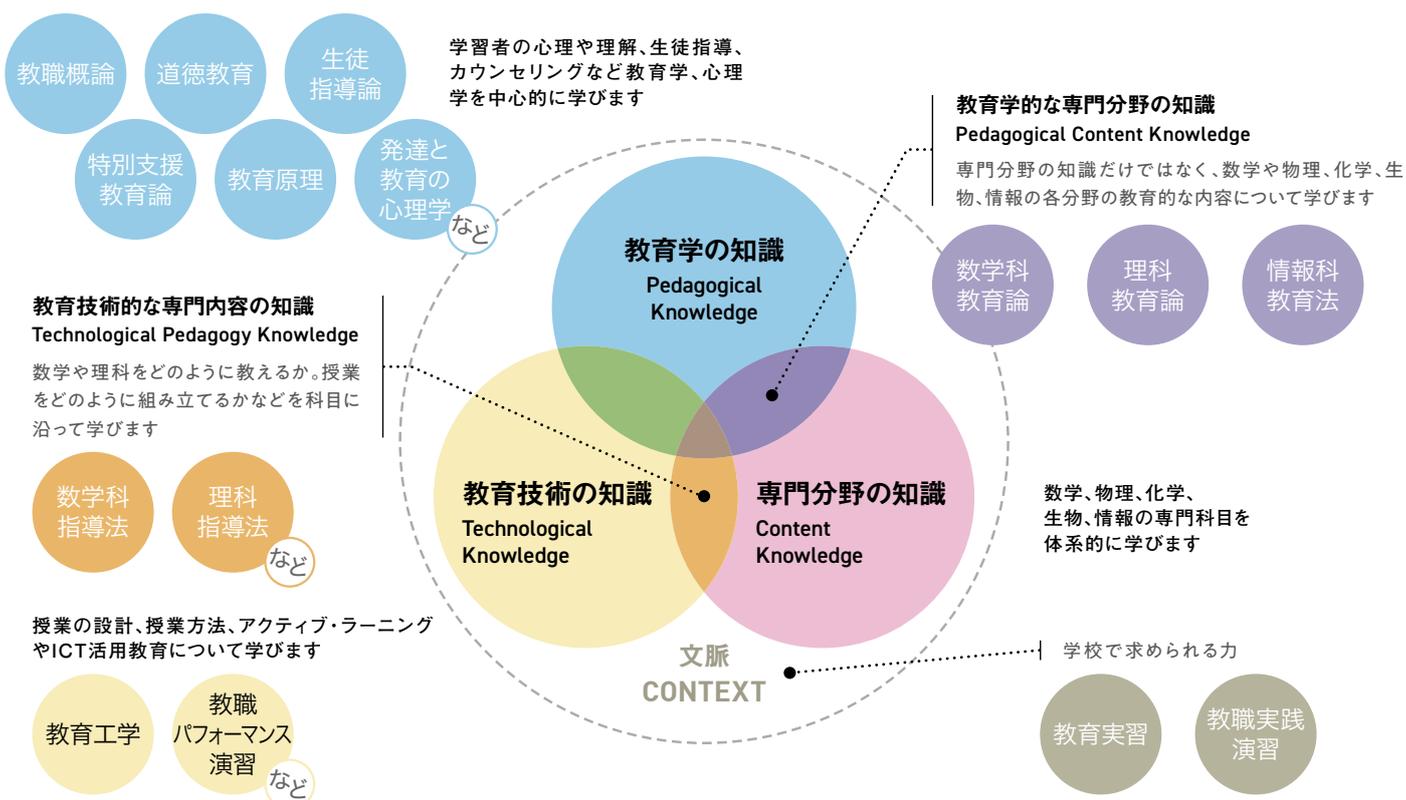
本学の教員養成の中核にあるのが全学的組織である「教職教育センター」です。教育学、教育技術、各教科の指導法などを専門とする本センター所属の教員が最新の知見を踏まえて授業を行い、学生は教育について深く考察する力を得ることができます。また、校長経験を有し、本学の卒業生でもある実践のスペシャリストが教員採用試験対策、進路指導など様々な場面でみなさんをバックアップします。

理数教員を志すみなさんには、ぜひ東京理科大学で学び、そして理科大卒業教員として活躍されることを期待しています。



## 教員育成の3つの力

本学の教員養成の最大の特色は、全国でも随一の専門教育を基盤とした理数教員養成にあります。数学、理科、情報の高度な専門分野の知識だけでなく、教育学の知識や教育技術の知識を学び教師力を高めます。



# 教職課程のステップ

本学の教職課程では、学年に応じて、理論と実践を往還しながら教職に関する学びを深めていきます。  
 数学、理科、情報に関する専門的知識を身につけることで専門性を高めつつ、同時並行で教育のプロフェッショナルを目指します。

※中学・高等学校専修免許状(数学)は、理学専攻科・数学専修(一年間)で取得することも可能です



# 在学生の一週間のスケジュール

昼間学部でも夜間学部でも教師を目指せるのが本学の教職課程の特徴です。昼間学部所属だと夕方以降、夜間学部所属だと午前中に、多くの学生がアルバイトや学校インターンシップを行い、教育現場での経験を積んでいます。また、大学院では、学部で教員免許状を取得した学生の場合、授業の合間に非常勤講師として実務経験を積むこともできます。

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	大学院
専門分野	理系科目の基礎学力を身に付ける	全領域にわたる専門基礎を学ぶ	関心のある領域を深く学ぶ	卒業研究 研究の進め方を身に付ける	専門研究 独自の研究開発手法を身に付ける
教養			一般教養科目		
学 年	1年生	2年生	3年生	4年生	大学院

時限/時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
1時限	教育課程編成論	情報科教育法2				情報と職業	教員採用試験対策講座
2時限	複素解析学B	常微分方程式論2	代数学1B	解析学1B	幾何学1B	教育実習指導演習	
3時限		解析学2		数学研究2		教育実習指導(事前)	
4時限		数学科指導法2					
5時限				数学科教育論2			
6時限	塾講師アルバイト		塾講師アルバイト				
7時限							

時限/時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
1時限		教育統計分析法					
2時限			数学教育(二)			理学部第二部数学科質問コーナーTA	
3時限			先行研究の調査副論文のまとめ		現代物理学教育(二)		
4時限		他大学院の院生と共同研究	先行研究の調査副論文のまとめ	修士ゼミ			
5時限	先行研究の調査副論文のまとめ		Presentation Skill		先行研究の調査副論文のまとめ	副論文のまとめ 修士論文執筆	
6時限			先行研究の調査副論文のまとめ				
7時限	学部ゼミ補助						

# 理科大教職課程の特色

次世代の教育現場を担う力を備えた教師を養成するため、本学では最先端の教育方法を学び、深め、実践する環境が整えられているとともに、教師力の向上に多角的にアプローチするプログラムが充実しています。

### アクティブラーニング教室

#### ICTを活用したアクティブラーニングを学べる

ICTを活用することでアクティブラーニングの可能性が大きく広がります。本学で理論を学び実践しながら、現代の教員に求められる資質能力を身につけましょう。

**大浦 弘樹 准教授**

これからの時代の教員に求められる資質能力として、「アクティブラーニングの視点からの授業改善、ICTの活用などの新たな課題に対応できる力量」が求められています。このアクティブラーニング教室では、教職課程の授業をアクティブラーニング形式で受講するだけでなく、学生自身が中学校・高校で、ICTを活用したアクティブラーニング型授業を展開できる能力を身につけることを目的とした教室です。教職課程では、この教室を使った模擬授業なども展開し、これからの教員に求められる資質能力を養成します。

### 学校インターンシッププログラム

#### 理論と実践を往還する

先生目線になって観察すると、生徒の時には見えなかった学校の別の姿がわかってきます。教職課程の授業を有意義にするために、ぜひインターンシップを活用してください!

**大島 真夫 准教授**

教職課程での学習を深めるために、大学で学んだ理論が学校現場でどう実践に役立っているのかを知ることはとても大切です。東京理科大学では、さまざまな中学校・高等学校や教育委員会と連携し、学校現場の実践を知り体験する機会として学校インターンシッププログラムを用意しています。

### 教職パフォーマンス演習

#### 授業のファシリテーション能力を磨く

ゲスト講師のプロの芸人から直接指導を受けることもできます。生きた技術を学び、アクティブラーニングを担うファシリテーターに求められるスキルなどを身につけましょう。

**井藤 元 教授**

現代の学校教育において、教師には単に教科に関する専門知識を有するだけでなく、パフォーマーとして授業のファシリテーションを行っていく力が求められています。本学では、漫才作りとおしてそれらの能力を身に付け、向上させる授業を開講しています。一見、まったく異なる職業のように思われる教師と芸人ですが、求められる能力や技能には多くの共通点があり、自分らしい授業を設計し、実践する力の基礎を身に付けることができます。

### 理科実験室

#### 大学にいながら中学・高校の理科室で学ぶ

理科は実験・観察を通して法則性を見出す学問です。実験でのセンサー活用なども含めて実践的な理科指導を学び、理科を学ぶ楽しさを一緒に普及させましょう!

**興治 文子 教授**

本学には中学校や高校の理科実験室を模した教室があり、実験器具や薬品をはじめタブレット端末やデジタル教科書などのICT機器も整備されています。大学の専門的な実験室とは異なるこの教室を使用して、実際に教師の視点で中学・高校の実験を学び、模擬授業を行うことで、理科指導力を向上させることができます。

### 大学院理学研究科科学教育専攻

#### 理数教育を多角的に研究する

より効果的な教授法を研究する学生もいれば、リカレント教育を研究する学生もおり、進路も学校教員や研究職の他に教育関係の一般企業と様々です。多様な研究テーマを持つ仲間と切磋琢磨する時間は、将来貴重な財産になります。

**渡辺 雄貴 教授**

本学には学校教育のみならず社会人教育などを含めた「科学的知識・技能の教育・普及・啓発活動の推進」に貢献する人材の育成を目指した大学院があり、学部から進学した学生のほか現職教員なども在籍しています。学部時代に培った専門知識を一層深める学生もいれば、実務経験を基に研究テーマを設定して追求する学生もおり、国際学会への参加と発表を研究室で行うといったように、自身の可能性や能力を一層広げる活動をサポートする環境があります。



# 大学院科学教育専攻で学ぶ

本学大学院 理学研究科 科学教育専攻は、教職大学院とは違なり研究を中心に据えた大学院です。今回は、渡辺研究室の学生に集ってもらい、それぞれの視点から科学教育専攻について語ってもらいました。

## 同じ研究室でも十人十色の研究内容

**渡辺先生** 渡辺研究室は教育工学を専門にしていますが、みなさんはそれぞれ何を研究しているのか、自己紹介もかねて発表してください。

**YKさん** 修士課程2年のYKです。自己調整学習能力を数学の授業内で育成できるシステムの開発をしています。

**YSさん** 修士課程1年年のYSです。理科室に学習環境デザインを取り入れる研究をしています。

**TDさん** 修士課程2年のTDです。授業内で学習経験の支援を可能にした授業設計の指針を開発しています。

**TKさん** 修士課程2年のTKです。理数科内におけるSTEM志向型授業の開発をしています。

**HKさん** 修士課程2年のHKです。数学の問題解決と自己調整学習の関連を研究しています。

**NKさん** 修士課程1年のNKです。数学の授業でのインストラクショナルデザインを取り入れた学習支援の研究をしています。

**KKさん** 修士課程1年のKKです。協同学習内でディプロマポリシーをどのように育成できるかの研究をしています。



## 教え方の理論を学び、研究したい

**渡辺先生** 皆さんそれぞれ異なった研究をしていますが、その研究をしようと思った理由を大学院への進学理由も併せて教えてもらえますか。

**YKさん** 将来教職に就くことを考えていて教職大学院に行くことも考えたが、しっかり理論を勉強し、それに基づいて生徒たちにあった授業設計をしていきたいと考え、研究を中心に据えた理科大の大学院を選びました。

**YSさん** 学部で教育方法技術の授業を受けて、教育を研究することが面白いと思い進学を決めました。

**TDさん** 将来数学の教員になりたいと考えているが、現場に出る前に学習者に合わせた授業を設計できるようになる必要があると感じました。そして、その設計の理論を研究することができることを知り進学を決めました。

**NKさん** 模擬授業がうまくできなかった中で、教え方にも理論があることを知り、さらに教育工学という分野を深く追求したいと考えたからです。

**渡辺先生** 実際、入学してみても入る前と後とのギャップはありましたか。

**HKさん** 理科大は中学と高校の免許しか取れないのに、中学高校以外の研究をしている人や教育全般の研究もしている人もいて、研究の幅が広いことに驚きました。

**TKさん** 各先生の研究分野がバラエティーに富んでいて、バランスが良いように感じました。様々な分野を学ぶことができます。

## 理論と現場の往還がある学びができる

**渡辺先生** そんな大学院で学んだことや研究していることはアルバイトや学校インターンシップなどの活動に役立ったりしていますか。



**KKさん** 塾の個別指導の講師をしています。理論などをしっかり知っているからこそ、自信が持てたり、生徒にあった教育ができるようになったりしたと感じます。

**TKさん** 私は逆に、アクティブラーニングが盛んな学校でインターンシップを経験し、その時に考え感じたことが今の研究の基礎になっています。

**渡辺先生** 科学教育専攻には教育現場で教鞭をとりながら大学院に通っている現職教員の学生もいます。皆さんは学部からストレートで大学院に入学していますが、彼ら彼女らの存在はどのように感じていますか。

**YKさん** 教育現場の現状を教えてもらえたり、自分の研究の足りない部分や現場のニーズを教えてくれたりして、話をすると勉強になることがたくさんあります。

## 論理的に思考する力をつけて社会へ

**渡辺先生** 皆さんはいま大学院の修士課程に在籍していますが、修了した後はどのような進路を考えていますか。

**TDさん** 高校の数学教員になりたいです。高校のころ勉強が苦手だった自分と真摯に向き合ってくれた先生がいました。そんな先生に自分もなりたいたし、そのためにも今しっかり研究をしたいです。

**TKさん** さらに研究したいので博士課程への進学を考えています。今も研究したことを学会などで発表させてもらっているのですが、もっと見識を深めて、自分が開発したものでより良い教育がされる社会を実現できたらいいなと思っています。

**渡辺先生** わたしは大学院に入るからには何か物事を解決するときの方法を身に付けて社会に出てほしいと考えています。例えば学校の授業でつまづいている生徒がいたとして、その子への対処を経験則に頼って行うのではなく、理論に基づく分析から導き出した方法で行えるようになって卒業してほしいので、皆さん頑張ってください。今日はありがとうございました。



# 教員志望者支援体制

各キャンパスにある教職課程指導室には、教育委員会や校長を経験したOB・OGの教員が在室して、教職に関する個別相談や教員採用試験に向けた面接や論文の指導を行っています。また、その教員らが“採用する側の視点”で指導に当たるオリジナル対策講座も、各段階に応じて実施されています。

## 教員採用試験対策講座

### 公立学校一次試験対策

- ① 事前対策講座（3年次の秋）  
専門教養と教職教養を身につけるとともに教育課題を理解し論文能力を高める。
- ② 春期集中コース（3年次の春休み）  
論作文、個人面接、集団面接、集団討論、模擬授業などを集中的に実施。
- ③ 直前対策講座（4年次の春）  
専門教養、教職教養そして論文の試験での実践力を身に着ける。

### 公立学校二次試験対策

- ① 二次試験対策講座（4年次の夏）  
個人面接、集団討論、模擬授業、場面指導を徹底的に対策。
- ② 学生の自主勉強会（4年次の夏以降に随時開催）  
教職課程指導室の教員も指導に入り、得意項目を伸ばし苦手項目を克服。

### 私学教員採用試験対策

- ① 対策講座（1月）  
全学年を対象に行い、早期からの対策を要する勉強方法を学ぶ。
- ② 個別指導（随時）  
学校ごとに異なる試験への対策を、個別相談・指導などでサポート。

## OB・OGによる教員養成

学校教育現場から大学に戻って教員養成に携わる道を選んだ先生方に、理科大教員養成について伺いました。

### はじめに、自己紹介をお願いします。

松本先生：松本 明です。1982年に理学部第一部数学科を卒業し、埼玉県公立高等学校で教師生活をスタートさせました。4校で教鞭をとり、その後、教頭・校長を経験し、2019年度から神楽坂の指導室で学生の指導に当たっています。

白田先生：白田 三知永です。1982年に理学部第一部数学科を卒業し、東京都立中学校に赴任しました。その後、高校や中等教育学校で教鞭をとり、高等学校の校長を経て、神楽坂の指導室に戻ってきました。

太田先生：太田 恭正です。1984年に理学部第一部数学科を卒業し、一般企業を経て千葉県公立高等学校に着任しました。公立学校のほか、千葉県総合教育センターや高等学校の校長を務めたのち、野田の指導室に着任しました。

柏木先生：柏木 信一郎です。1984年に理学部第一部応用数学科を卒業しました。卒業後は神奈川県立公立高等学校で教師生活をはじめ、理科大に来るまでによくつもの高校で教鞭をとり、校長職も経験しました。神楽坂の指導室にいます。

### 本学で教員養成に携わるようになって感じたことを教えてください。

松本先生：今まさに教育の変革期を迎え、求める教師像も大きく変化しています。時代の先を担う教員養成は簡単なことではなく、試行錯誤の毎日です。その反面、大きなやりがいを感じていることもまた事実です。

白田先生：実践的な授業では、学生が日々成長していく姿を目にでき楽しいです。授業外では、教員採用試験合格に向けての講座が充実しています。就職に向けてサポートが充実している大学という意味がよく分かりました。

太田先生：自分が学生の頃は、模擬授業を経験できる数学科指導法等の授業はありませんでした。現在の教職関係の授業はどれも魅力的です。授業の中で、自分自身の経験を、教職の魅力発信する際に生かしていければと考えています。

柏木先生：今高校生には変化が激しい社会において、自ら課題を解決し、たくましく生活する「生きる力」が求められています。教職を目指す理科大の学生にも、教育現場でぶつかる様々な課題を乗り越え、生徒を導ける力を身につけてほしいと思います。

### 教職志望の学生を教えていて感じる理科大生の特徴はありますか？

松本先生：理科大生は真面目で研究熱心な学生が多い印象です。さらに実力を磨くため、「学校インターンシップ」制度を活用し経験値を高めようとする学生も少なくありません。本学の「実力主義」は教職課程でも健在です。

白田先生：私の大学時代と比べて、女子学生がずいぶん増えたように感じます。教職志

望の女子学生は「数学や理科の楽しさを伝えたい」と口を揃えます。日本の教育に欠かすことのできない視点です。思いつき突き進んでほしいと思います。

太田先生：対策講座は、神楽坂と野田の学生が触れ合い、お互いを高め合うことのできる有意義な場です。真面目に取り組む学生が多いのは、理科大のよき伝統ですね。学生が頑張っているからこそ、進路実現させてあげたいと強く思えるのです。

柏木先生：学校現場に配属される若手の教員は、真面目で一生涯懸命な人物が多いです。教職の授業でICTを取り入れた授業や指導法を多く学んでいるせいか、理科大出身の教員は学校現場でICTの活用でも中心となることが多く、また期待されています。

### これから理科大を目指す方、教職を目指す方にむけて一言をお願いします。

松本先生：本学は、教育学部の域にとどまらない高い専門性を有した教員を養成し、全国に数多く輩出してまいりました。その伝統は今も変わりません。私たち専門員がきめ細やかなサポート体制を築いています。あなたも「次世代を担う理数好きな生徒」を育成できる教員を目指しませんか。

白田先生：「教員志望の学生が多い」ことは理科大の特長の一つです。当然、学生同士で教職の魅力語り合う機会も多くなります。みんなで頑張りましょう。OGとして精一杯支援をしていきます。

太田先生：教員の仕事とは何かを考えさせること。教員魅力を十分に伝えること。教員採用試験に向けて頑張らせること。これらが我々の使命だと考えています。教職課程指導室の職員として、理科大OBとして、本気で関わり合いたいと思います。

柏木先生：社会がどのように変化しようと教職の重要性が低下することはありません。資源のない日本にとって人こそが資源です。理科大は、建学の精神にもある



ように理数教育にとっても力を入れており多くの教員を輩出してきました。サポート体制も整っています。ぜひ教職を履修してみてください。

## 教員採用試験合格者の声

「教育」の現場で活躍するスタートラインに立った先輩たちの生の声を紹介しています。



## 卒業生の声

### 教員になってからも 生かせる力がつく



日比 紀隆

岐阜県立大垣東高等学校 教諭  
(2019年 理学部第一部数学科卒業)

令和のスタートとともに私の教員生活もスタートしました。現在は2校目で、理数科の担任を務めています。学習指導を中心に、探究活動や部活動の指導などで、忙しくも充実した毎日を送っています。理科大の教職課程が充実していたことは、教員になってからも幾度となく実感します。生徒を前にすると「目の前の生徒にどのような力をつけたいか」「そのために自分はどのような働きかけができるか」と自分自身に問いかけることがよくありますが、その答えを探る過程で、数学科指導法や教職実践演習をはじめ、理科大の授業で学んだ内容は、いつもそのヒントになっています。理科大の教職課程に

は、数年先に教員になってからも生かせる知識やノウハウがたくさん詰まっていることを実感します。そして、現場で勤務してみないと分からないことも山ほどあると痛感しています。これからも、教科指導はもちろん、それ以外の面からも、生徒の成長に少しでも携われるように、貪欲に学び続けていきたいと思っています。



### 専門性を高め、 実践的に教師力を 磨くことができる



中村 仁美

埼玉県杉戸町立広島中学校 教諭  
(2020年 理学部第一部物理学科卒業)

学部卒業後、公立中学校へ採用され現在は、30名の担任をしながら、バスケットボール部副顧問として慌ただしくも、充実した日々を送っています。もともと私は理科が嫌いでしたが、中学生で恩師と出会い理科の面白さに感動しました。その感動を一人でも多く知ってほしいと思い教師を志すようになりました。理科大では、理科の面白さを伝えるために必要不可欠な専門性を養うことができました。模擬授業や、ロールプレイ、実験や話し合い活動を取



り入れた日々の講義1つ1つを通じて、教科的専門性が高められました。また、論文や面接指導での丁寧にご指導いただき、教員採用試験の対策を行う中で生徒指導や教育相談に関する知識や考え方も学ぶことができました。ご指導してくださった先生方には本当に感謝しています。理科大で学んだことが、今の私の土台になっています。生徒の興味・関心に火を灯せるような授業を目指し、授業改善を繰り返して教壇に立っています。「うわ、すごい!」「なんで?」「分かった!」と言った生徒の音が教師としてのやりがいにつながっています。今後も情熱を持って生徒と向き合っていきたいです。

### 信頼される 教師を育てる 環境がある



大野 正文

光英VERITAS中学校・高等学校  
(旧校名:聖徳大学附属女子中学校・高等学校  
2021年4月校名変更) 副校長  
(1988年 理学部第一部応用数学科卒業)

長い年月、学校現場に身を置き感じることは、理科大卒の教員は周囲の生徒や教員から厚く信頼される存在だということです。それは、理数教育における高度な専門性に裏付けられた授業実践力と、生徒の学力を確実に高めていくためにともに学ぶことのできる真摯な人間性を兼ね備えているからだと思います。そんな理科大卒教員の活躍は、よき伝統と質の高い教育プログラムと充実した施設・設備によって育まれるものなのでしょう。私自身も学生時代、理科大で学ぶ中で教員として必要な能力を自然と身につけてもらえたもの

と感謝しています。教員になった後も、多くの学校現場をはじめ各種の教育研修会やさまざまな学会等の学び合いの機会が多く理科大卒の仲間たちと出会うことができます。一生の財産である理科大卒の教員ネットワークをずっと大切にしていきたいと思っています。

### 研究室での学びが 中等教育に直結する



高田 慎太郎

佼成学園女子中学高等学校 理科教諭  
(2019年 理学研究科物理学専攻  
修士課程修了)

学部卒業後、働きながら理科大で教職科目の科目等履修生をした後に大学院に進学、修士修了と同時に教員免許を取得して2019年4月に現職に着任しました。教職科目を学ぶにあたって大きな助けになったのは研究室の仲間たちでした。研究室で教職課程について話題に上がることも多く、また日々の授業や実験・課題・研究での苦労を知っている仲なので支えあえる関係になりやすい、大変だからこそ助け合い学びがいがある、そんな環境だったと思返しています。現職では理科教員として高校物理を中心に中学理科や化学、そして総合探究を担当しています。また、

入職後一貫して国際部という分掌で留学生の受け入れや留学する生徒の支援、ニュージーランドに1年間留学するクラスの担任をしています。高等学校でも新学習指導要領が改訂されて教科も含めて探究活動に重きが置かれるようになり、研究室や学会での経験が強く活きていると感じます。また、修士課程で英語論文に多く触れた経験は現在の英語を用いる職場環境には欠かせなかったとも思います。これからの中等教育はますます探究と英語が重要視されていくと思うので、理科大で学んだScienceを主軸として探究活動を深めていきたいです。

## 数字で見る理科大の教員養成

創立以来多くの教員を輩出してきた本学の伝統は現在も受け継がれ、今も非常勤を含めると毎年100名以上の理数系教員を全国の教壇に送り出しています。これは国語や社会など文系の教員も輩出する総合大学などに引けをとらない数で、いかに本学の教員養成が現場で必要とされている力を養成しているかの証明といえるでしょう。

<b>2021年度教員採用者数</b> 中学教員採用者数 <b>28人</b> 高校教員採用者数 <b>43人</b>	<b>教員免許状取得者数</b> (過去10年) <b>3791人</b>	<b>教員採用者数</b> (過去10年) <b>1257人</b>	<b>教員免許状が取得できる</b> <b>学部・学科数</b> <b>3学部 12学科</b>
---	---	--	--

## 理科大で取得できる教員免許状

神楽坂キャンパスと野田キャンパスに、数学、理科、情報の教員免許状を取得できる学部・学科があります。各々の大学院などで専修免許状が取得できるようになっているほか、神楽坂キャンパスの夜間部では、昼間は働き夜に免許状取得に向けて学ぶこともできます。

キャンパス	学部	学科	教員免許状の種類・教科									
			一種免許状					専修免許状				
			中学校		高等学校			中学校		高等学校		
			数学	理科	数学	理科	情報	数学	理科	数学	理科	
神楽坂	理学部第一部	数学科、応用数学科	●		●		●					
		物理学科	●	●	●	●						
		化学科、応用化学科		●		●						
	理学部第二部	数学科	●		●		●					
		物理学科	●	●	●	●						
		化学科		●		●						
	理学研究科	数学専攻、応用数学専攻						●			●	
		物理学専攻、化学専攻							●			●
		科学教育専攻 <sup>※1</sup>						● <sup>※1</sup>				
	理学専攻科	数学専攻						●			●	
野田	創域理工学部 <sup>※2</sup>	数理科学科、情報計算科学科	●		●		●					
		先端物理学科	●	●	●	●						
		生命生物科学科		●		●						
	創域理工学研究科 <sup>※2</sup>	数理科学専攻、情報計算科学専攻						●			●	
		先端物理学専攻、生命生物科学専攻							●			●
	生命科学研究科	生命科学専攻							●			●

※1 数学または理科のどちらかのみ取得可能 ※2 2023年度名称変更

## 教職教育センター Webサイト

教職課程の履修方法、所属教員の紹介、刊行物、そして教育委員会等との連携活動まで、様々な情報を掲載しています。本学の教員養成に関する取り組みをより詳しく知ることができます。

URL: <https://www.tus.ac.jp/ks/>



センターの紹介

刊行物

教員紹介

教育実習

最新ニュース

現職教員研修

先輩の声



東京理科大学  
TOKYO UNIVERSITY OF SCIENCE

# 東京理科大学の 教員養成

伝統の実力主義が育む  
授業実践力と  
高度な専門分野の知識

